

平成 21 年 5 月 10 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19520613
 研究課題名（和文） 台湾総督府文書中の「番割」と官蕃交易——撫墾署と蕃産物交易所を中心として——
 研究課題名（英文） 18-20th Ethnic Domination and Trade in Taiwan
 研究代表者
 林 淑美 (Lin Shumay)
 名古屋商科大学・経営学部・准教授
 研究者番号：50387651

研究成果の概要（和文）：2007-2009 年の 3 年間にわたる研究期間においては①文献史料の閲覧・複写・読解、②現地調査（フィールドワーク）による原住民族の村落調査、の 2 点においてめざましい研究成果をあげることができた。①では淡新档案・台湾総督府文書をはじめとする文献研究、②では原住民族に実際にインタビューすることによる実態研究が可能となった。①②をつらぬく問題関心は原住民族・漢民族関係の有様、特に交易関係を中心とし、清代から現代までの長期スパンにおよぶ台湾史の復原を試みた。

研究成果の概要（英文）：During 3years Study Period, I Finished ①Literature Reading, coping, and Decoding, ②Aboriginal Villages research by Field Survey. All of These can Contribute Remarkable Results of Research. Literature Study and Decoding are Completed by Dan-shin and Taiwan Governor's Official Archive. And it is Possible for us to Catch the Aboriginal People by Actual Interview. The Common Problem are the Han and the Aboriginal Relationship, especially Trade Relationship from the Qing Dynasty to the Present.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	900,000	270,000	1,170,000
2008 年度	700,000	210,000	910,000
2009 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,300,000	690,000	2,990,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：台湾史、近現代史、台湾総督府文書、フィールドワーク、原住民族

1. 研究開始当初の背景

(1) 大阪大学大学院文学研究科に提出した

博士学位請求論文「清代台湾移住民社会史研究序説——科举受験問題から見た閩・粵関係

——」のあとを受けて、漢民族内部の閩・粵関係のみに止まらず原住民族をも含めた台湾史の構築し、清代のみならず現代の台湾までも視野に入れた長期的な歴史像を描出したいと考えていた。

(2) 開始当初ようやく整理が完了し公開されるに至った「台湾総督府文書」を本格的に閲覧・複写し、日本統治時代の官・蕃交易を可能なかぎり復原しようと計画した。

(3) 上記のような歴史的な視点のみならず、現在の台湾（特に戦後の国民党支配下）では原住民族と漢民族との間に如何なる関係が結ばれているのかも追究してみたい重要な課題であった。

2. 研究の目的

(1) 日本帝国経済体制下の台湾で大きな比重を占めつつあった、原住民族の蕃産物（鹿皮、鹿鞭、鹿肉、熊、野猪、蓮草、蘭草、苧麻など）を入手するため、台湾総督府は如何なる対原住民族政策を実施したか。

(2) 蕃産物を入手する現場では、どのような人々が台湾総督府と原住民族との間に介在したか。これらの人々は日本統治時代を通じて如何なる役割を果たしたか。

(3) かかる仲介者は日本統治時代はもちろん、国民党遷台後の台湾でも重要な役割を果たしたことは容易に想像できよう。戦後の台湾史の歩みのなかで仲介者と原住民族はどのような関係を取り結んできたか。

以上の諸問題について検討を加える。

3. 研究の方法

(1) 文献史料の徹底的な収集・整理・読解。

とりわけ公開されたばかりの台湾総督府文書に着目し、その網羅的な閲覧・複写を行った。いまだ全ての文書を読み終えたわけではないが、今後の整理・読解に向けて大きな足がかりをつかむことができた。

(2) 現地調査（フィールドワーク）の活用。原住民族の村落へ入っての景観調査のみならず、原住民族や、原住民族の村落に居住する漢民族へのインタビューを試みた。原住民族・漢民族関係の現在をさぐるためである。

4. 研究成果

(1) 台湾総督府文書など文献史料群

文献史料調査については3年間にわたって充実した収集を行うことができた。主な調査地は台湾の国史館台湾文献館、国家図書館、国家図書館台湾分館、中央研究院台湾史研究所、台湾大学図書館、台湾大学附属台湾原住民族図書資訊中心があげられる。特に国史館台湾文献館所蔵の台湾総督府文書の一部分＝「公文類纂」には、大嵙崁、五指山・南庄・大湖・東勢角・埔里社・叭哩沙・林杞埔・蕃薯寮・恒春・台東の撫墾署に関する撫墾署事務成績報告、撫墾署開署報告など多数の文書群が含まれており、すべての史料を閲覧できたわけではないが、相当量を閲覧・複写することができた。また台湾大学では『台湾日日新報』、『中央日報』、『中国時報』、『台湾時報』、『花蓮港宥報』、『新竹州時報』などの新聞類のほか、「淡新档案」「岸裡大社文書」などの档案類、『東台叢書』、『台湾蕃人調査』、『田代文書』、『伊能文書』の報告書類、中央研究院台湾史研究所では『下村宏文書』、『台湾史料稿本』、『後藤新平文書』など、撫墾署・蕃産物交易所に関する記事を含んだ、現地調査報告・雑誌・日記類の一部を閲覧・複写できた。これらの史料の一部はすでに整理・読解がすすみ、論

文として成果を発表できたものもある。今後さらに研究成果をまとめていきたい。

(2) 郷公所・地方民間文化団体への訪問
調査対象地域の郷公所や地方民間文化団体と連絡を取ったり、実際に訪問したりした。1 つには実際に調査の初期段階において郷公所の秘書科・戸籍科・民政科・観光科を訪れ、その職員やそこに当直している各村落の村長にインタビューを行った。また、近年出版した当地の地方志＝郷誌（郷志）を恵与されたり購入したりした。直接に郷公所を訪問できなかった場合には電話で連絡をとり、必要な地方志をすべて入手することに成功した。また1 つには地方民間文化団体も訪問した。たとえば、自在工作室（台東、1994 年設立、責任者：林唐柏氏）には台東地区の文史記録・地方耆老口述歴史訪談・田野調査記録があり、恩格文史工作室（南投、1995 年設立、責任者：黄炫星氏）には田野調査記録・郷土史料という、当団体のみが所蔵する興味深い報告書・資料集が所蔵されていた。こうした地方志や民間所蔵の資料は、地域史研究を行うのに不可欠のミクロな情報をもたらしてくれる。論文を執筆する際はもちろん、次に紹介するフィールドワークを実施する際の基本情報、およびインフォーマントとの関係づくりに重要な役割を果たすものとなった。

(3) 原住民族の村落におけるフィールドワーク（現地調査）

原住民族の村落におけるフィールドワーク（現地調査）、特にインタビューは 3 年間ほぼ特定の村落を重点的に行うことになった。具体的には、主に信義郷の潭南村・東埔村・地利村・双龍村、水里郷の明和村の 5 村にしぼった。そこでは原住民族（布農〈ブヌン〉族）自身、原住民族の村落で商店を営む漢民

族、原住民族の女性と結婚した漢民族、原住民族の土地（保留地）を耕作する漢民族などのカテゴリーに含まれる人々を訪問しインタビューを実施した。特にそこで重要なキーワードとなったのが、国民党統治初期に原住民族居住地に設けられた交易機関＝民生商店・供銷会で、それらの機関を通じた交易の実態、そこで活動する人々の生態などについて詳細な聴き取りを行った。現在、そのインタビュー記録を整理中であり、整理が完了でき次第、数本の論文とともに『現代台湾の原住民族の経済と生活——布農（ブヌン）族の村落における口述記録集』（仮題）を出版する予定である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 3 件）

林淑美 「一九世紀台湾の閩粵械闘からみた「番割」と漢・番の境界」（『東洋史研究』第 68 巻第 4 号、pp. 58-86、2010 年）

林淑美 「台湾原住民族社会と観光産業」（藤卷正己編『グローバル化とアジアの観光——他者理解の旅へ』ナカニシヤ出版、pp. 65-78、所収、2009 年）

林淑美 「台湾事件と漢・番交易の仲介者——双溪口の人々のまなざし——」（加藤雄三編『東アジア内海世界の交流史：周辺地域における社会制度の形成』人文書院、pp. 171-190、2007 年、所収）

〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計 1 件）

北村稔（著）・林淑美（訳）『社会主義為中国

带来幸福了嗎？』（台湾、遠流出版社、P223、
2007年、原題『中国は社会主義で幸せになっ
たのか』、PHP新書）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

林 淑美 (Lin Shumay)

名古屋商科大学・経営学部・准教授

研究者番号：50387651

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし